

1 趣旨

公益財団法人日本食肉流通センター（以下、「センター」という。）では、平成29（2017）年4月から部分肉の公表価格の算定方式を変更（以下、新算定方式という。）し、豚部分肉の日別価格を月報として公表してきた。また、令和2（2020）年5月から、和牛チルドの週報としての公表等級を「3」から「4」に変更した。

新算定方式に基づいた公表が一定期間経過した機会をとらえ、センターで保管しているデータ及び農林水産省の食肉流通統計の資料を使用して、部分肉の近年の価格動向がどのような特徴を有していたかを統計的な手法を活用して明らかにするため、センター近隣の食肉中央卸売市場の枝肉価格と同規格の部分肉のセット価格の相関係数の算出及び部位別価格の季節性等の分析を行った。

2 使用データと分析項目

1) 使用データについて

(1) 対象期間

平成22（2010）年2月から平成31（2019）年3月までの110ヶ月間

(2) 対象データ

- ①センター部分肉公表価格（月次ベース、消費税込、
販売先到着時の価格（販売先までの輸送費を含む。））

重量中央値、第1四分位値、第3四分位値、月間取引重量

対象地域：首都圏、近畿圏

中京圏及び九州地域は、データ数が少ないこと等で、今回は分析対象としなかった。

※ 但し、平成22（2010）年2月から平成29（2017）年3月分までの公表価格は、旧算定方式であったため、新算定方式にて遡及再計算を行った。

消費税率は、平成22（2010）年2月から5%、平成26（2014）年4月から8%である。

- ②食肉中央卸売市場（消費税込価格、引用：農林水産省「食肉流通統計」）

東京市場枝肉価格 及び 大阪市場枝肉価格

③分析上の対応規格

| 食肉中央卸売市場・枝肉規格 | センター・部分肉規格 |
|---------------|------------|
| 豚「上」 | 豚カット肉「I」 |
| 和牛去勢「A-4」 | 和牛チルド「4」 |
| 和牛去勢「A-3」 | 和牛チルド「3」 |
| 交雑牛去勢「B-3」 | 交雑牛チルド「3」 |
| 乳牛去勢「B-2」 | 乳牛チルド「2」 |

※部分肉価格には、対応する枝肉規格のめす牛の部分肉が含まれる。

2) 分析項目

本報告の分析において、有意確率が0.05未満を統計的に有意水準とみなした。

ア 枝肉価格とセット価格（重量中央値）の首都圏と近畿圏の比較

食肉中央卸売市場の枝肉価格とセンターのセット（以下、部分肉フルセット（半丸セットを含む。）を本文では単に「セット」という。）価格において、首都圏と近畿圏で、価格差があるか、価格のばらつき（変動）に違いがあるか、牛・豚で枝肉とセットでの価格のばらつきに違いがあるかを分析する。

そのため、東京市場と大阪市場の枝肉価格及び首都圏と近畿圏のセット価格の平均値及び標準偏差等の比較を行った。

イ 首都圏と近畿圏での枝肉価格とセット価格（重量中央値）の相関関係

枝肉価格とセット価格は連動して推移しているといわれているが、それを検証するため、豚・牛肉の両価格の相関係数を計算する。

その計算の際、豚・牛肉の熟成期間の差を考慮して、両価格間でタイムラグをおいて分析する。

そのため、東京市場の枝肉価格と首都圏のセット価格及び大阪市場の枝肉価格と近畿圏のセット価格の相関を同月だけでなく、1ヶ月後から6ヶ月後までそれぞれずらして分析した。なお、各畜種の対応は、上記の2の1)の(2)の③分析上の対応規格による。

ウ 首都圏と近畿圏でのセット価格（重量中央値）と枝肉価格の回帰式

イでセット価格と枝肉価格に強い正の相関が検証されたため、枝肉価格からセット価格を推定する回帰式を計算する。

そのため、相関を分析した結果の内、各畜種で一番相関係数の大きい組み合わせについて、近似直線である回帰式（ $y = Ax + B$ ）を求めた。

エ 枝肉価格及びセット価格帯の推移グラフ

センターの公表価格は、重量中央値だけでなく、第1四分位値（重量中央値より安値）と第3四分位値を含めている。イでみたように、重量中央値は枝肉価格と連動しているが、第1四分位値と第3四分位値は、枝肉価格が上昇・下降する際、どのように変化するかを、事例として、豚カット肉「I」と和牛チルド「4」で分析する。

そのため、枝肉価格に対応するセットの価格帯（第1四分位値と第3四分位値の幅等）の推移については、枝肉価格の動向に応じて変化する価格帯の動向に特徴が顕著に表れた組み合わせ、首都圏の豚「上」と豚カット肉「I」及び首都圏の和牛去勢「A-4」と和牛チルド「4」について、考察を行った。

オ 首都圏での豚カット肉「I」ばら価格の上昇、ヒレ価格の下降

対象期間中、首都圏において、豚カット肉「I」のセット価格に対して、主要な部位の価格が、どのように変化したかを分析する。

そこで、セット価格を100として、各部位価格のセット価格に対する割合（比価）を算出して、対象期間中の比価の動向を近似直線により簡略し、豚カット肉「I」の「かたロース」、「うで」、「ロース」、「ばら」、「もも」、「ヒレ」の計6部位を取り上げて分析した。

カ 首都圏での和牛チルド「3」及び「4」のもも関連部位の価格動向

消費者の「赤身志向」が高まっているといわれる中で、首都圏の和牛チルド「3」及び「4」において、脂肪分が少ない部位（もも関連）のセット価格に対する比価が、相対的に高まっているかを検証する。

そのため、和牛チルド「3」及び「4」の「うちもも」、「しんたま」、「らんいち」、「そともも」、「ももセット」の5部位を取り上げて分析した。

原系列の図では、豚肉と異なり、比価は直線的な動向ではなかったため、多項式による近似曲線を求めた。

キ 和牛かたロースの12ヶ月周期の季節変動（価格及び取引重量）

対象期間中、主要な部位の価格及び取引重量の推移をグラフ化してみると、顕著に12ヶ月周期を示したものがみられた。

そのため、顕著な特徴が認められた首都圏・和牛チルド「4」・「かたロース」の価格及び取引重量について、12ヶ月周期の年間変動を検証した。

ク セットと主要部位の月間取引重量の相対的な推移

首都圏と近畿圏において、セットと部位別の取引重量に差がみられるかを検証した。

首都圏と近畿圏について、各月のセットの取引重量を100として、月毎に主要部位の取引重量のセットの取引重量に対する割合（比率）を対象期間において算定し、グラフ化後、比較・分析した。